

水谷のいう第 3 型は, Angioblastom とした方がよい。

今井: 1 才の例をみた。

5. 慢性円板状エリテマトーデスに続発せる棘細胞癌の 1 例について

富岡 容子

症例 36 才男。主訴右手背腫瘍。初診昭和 41 年 3 月 30 日。既往歴に放射線照射なし。現病歴は 6 才頃より冬になると両手背, 手指関節部, 足, 耳, 鼻等に凍瘡様皮疹を生ず。16 才頃より, 夏にも皮疹を持続するようになる。半年位前より, 右第 II 指基関節部に, 疣贅状変化出現。治療の目的で当科入院。全身的に異常なし, 局所所見; 右手背に 2.5 cm × 2.5 cm 大境界鮮明な腫瘍あり。自覚症なし。その他, 慢性円板状エリテマトーデス型皮疹あり。検査所見異常なし。治療は腫瘍切除後, 中間層植皮施行後放射線照射。組織所見で, Broders の分類 II 度に属する棘細胞癌であった。本邦では, 大正 15 年より, 昭和 38 年の小林の例まで, 12 例。本症例は, 13 例目にあたると思われる。(第 445 回東京地方会にて同趣旨のもの報告)

6. Intractable pustular eruption of the hand and feet

菅原 宏

〈症例〉 49 才男子。店員。昭和 40 年 8 月以来, 掌蹠に紅斑落屑膿疱性の局面を生じ, きわめて難治である。頭, 両肘頭, 両膝下腿に紅斑性落屑性の局面を伴っている。頭部鱗屑は雲母状をなしている。内科的諸検査に異常なく血沈, 血清諸反応, ASLO CRP も正常である。組織学的には掌蹠膿疱部では Andrews 型膿疱に一部 spongiose を伴い, 頭部, 下腿では軽度の網稜の延長と乳頭浮腫を認める。

〈考案〉 Pustular Psoriasis (Baber 型) と Lever の Pustulosis palmaris et plantaris との病名の異同, ならびに pustular psoriasis (Baber 型) の存否に関し文献的考察を行ない, 本症例の場合, いかん診断すべきかを問うた。演者は pustular psoriasis Baber の存在を認めず他部位の変化は, pustulosis palmaris et plantaris の掌蹠外発症例であるとの見解である。

討 論

黒崎: pustulosis palm. et plant. である。

西原: 尋常性乾癬でよいと思う。他の部位のものは, それであって, 掌蹠に生じたものが膿疱を作ったものだろう。

今井: この領域の疾患はその独立性が疑わしい。本例は pustular psoriasis であろう。

7. Vasculitis allergica cutis (M. Ruiter) の一例

番場 秀和, 市川 浩

9 才女児。既往に習慣性扁桃炎。昭和 39 年 10 月右足蹠に膿瘍を生じ, 排膿後痂皮を伴った疣状増殖をみた。同年 12 月右足背, ついで下腿および臀部にはほぼ対側性に同様皮疹。昭和 41 年 1 月顔面, 手背および前腕に拡大。皮疹は紅斑, 丘疹, 紫斑および水疱からなる。癢痒は不定。ASLO および血清 Ca 高値のほか臨床検査所見に異常なし。組織学的な主変化は, 真皮全層の血管内皮膨化, フィブリノイド膨化, 多核球浸潤, 白血球崩壊および核塵である。(第 30 回東日本連合地方会にて同趣旨のもの報告)

討 論

中山: parapsoriasis variiformis acuta に似ている。

市川: Ruiter のアレルギー性血管炎である。本型から持続性隆起性紅斑に移行した一例が Dupperat により報告されている。

竹内(勝): 類線維素変性の存在は, 必ずしもアレルギー性であることを示さない。

8. 皮膚リーシュマニア症を疑った例

加藤 友衛

72 才 女子。顔面に紅色丘疹状の変化出現, 漸次, 腫瘍状となり癬痕となる。これを繰返していたが, 50 才頃から鼻翼の変形が始まった。既往歴: STS 陽性。家族歴: 実弟が皮膚リーシュマニア症 (358 回東京地方会)。

顔面に癬痕, 両鼻翼の欠損, 残存鼻翼に紅斑, 痂皮をつける。右鼻根に小豆大の辺縁鋭く隆起し, 中央扁平なる暗赤色の浸潤ある皮疹あり。臨床一般検査: マントー反応 偽陽性, STS 弱陽性, 空腹時血糖 180 mg/dl 以外異常なし。組織学的には, 表皮は全体に軽度の過角化, 一部錯角化, また表皮肥厚, 表皮突起の延長がみられる。真皮は, 一部乳頭に好塩基性変性, 組織球・形質細胞・リンパ球よりなる細胞浸潤。リーシュマン体は確認できなかったが, 皮膚リーシュマニア症を疑って検索中の例を患者供覧した。

討 論

今井: この患者の兄を診察した。供覧されたドノバン小体は, 群大例のものとは違う。Genodermatose は考えられないか?

9. Chromoblastomycosis

川瀬健二, 宮治 誠, 西村和子

52 才 男子。農業。患者は約 1 年前より糖尿病ならび